

人とつながり、私の世界が広がる暮らし ～コレクティブハウス聖蹟

NPOコレクティブハウジング社 理事 狩野三枝

コレクティブハウジング

それは、豊かな共用空間を持ち

コミュニティで暮らす住まい方

新たに人と人がつながり直すことのできる暮らし

それは一人一人が大切にされる社会

「誰かに会える」「一人になれる」

安心して孤独でいられる

あなたの居場所があります

少し詩的な表現ですが、私たちはコレクティブハウスのことをこんな風に表現しています。

皆さんは、今お住まいの場所でご近所やお隣とどんなつながりを持って暮らしていますか？私たちは、コレクティブハウスで暮らしてみたいという居住希望の方に、毎月10人ほどお会いしてお話をうかがいますが、多くの方が隣の人の顔も知らず、知っていてもほとんど会話を交わしたことがないとおっしゃいます。それは、一人暮らしの方に限らず子育て中の方も同じで、そういう隣人とのつながりのない暮らしに疑問や不安を持ち、何かきっかけや方法を探しているうちにコレクティブハウスに辿り着いたようです。

コレクティブハウジング社の手がけたコレクティブハウスは現在東京都内に4棟あり、すべて賃貸住宅ですが、どこも居住希望者が参加しながらハウスづくりを進めてきました。そして、住み始めてからは居住者組合をつくり、自主運営をしています。



▲月1回の庭作業

コレクティブハウス聖蹟（以下CH聖蹟）は2009年4月にオープンしました。ここでも、多くの方が多世代で多様な人とのつながりを求めてプロジェクトに参加され、住み始めて一年半、現在は、0才～高校生までの子ども9人と大人24人が暮らしています。どんな暮らしなのか、CH聖蹟の居住者の皆さんの言葉を拾いつつ、少し具体的にお話ししましょう。

今日はコモンミールがあるから夕食の買い物はしない。学校から帰った息子と、コモンキッチンでおやつを一緒に作って腹ごしらえした後は公園でキャッチボール。「ママ、投げるのうまくなったね」と息子。家事を慌ただしくこなすだけで精一杯だった日々から、こんな風に子育てと暮らしを楽しむ余裕が生まれました。
(30代女性 家族で入居)

CH聖蹟は、6世帯が子育て中の家族です。共働きの方が多く、地元の保育園に通う子どもたちは、多摩市のファミリーサポートを活用して送迎をしてもらっています。そういった公的サービスも利用しながら、コレクティブでは居住者が共同で夕食を作って食べる「コモンミール」（食べる食べないは予約制で個人の自由）が月の半分ほどあるので、当番でない日は子どもと遊ぶ余裕ができたり、子どもと二人だけの食事だけでなく、大勢の人と会話をしながら人が作ってくれた温かくておいしい食事ができます。



▲コモンルーム全景

大勢での食事、広い共用スペース、屋上菜園や庭の緑。自分たちの暮らしについて考え、話し合うこと。自分の家族だけでは出来ないことや得られないものがたくさん。人との緩やかなつながりがある暮らしを求めて入居したが、住んでみたら、他にもたくさんのものがありました。
(30代男性 家族で入居)